

# 満漢文献資料の内外の所蔵状況について

——中国語学研究の立場から「石濱文庫」満洲語文献を中心に——

内 田 慶 市

About the holding status of Manchu and Chinese materials

UCHIDA Keiichi

Manchu and Chinese texts are a very useful source of historical research on Chinese linguistics.

From the viewpoint of language contact, there is a great influence on each language. Chinese in the Qing dynasty is clearly influenced by the Manchu language, which is closely related to the formation of Mandarin. Manchu and Chinese materials are stored around the world, but their overall organization has not been done so far. This time, I would like to organize the basics of the collection of the main Manchu and Chinese materials in Japan and abroad and make it available to researchers.

Keywords: Manchu, Chinese, Language contact, pidgin, Creole, Qing dynasty

キーワード：満漢合璧、言語接触、ピジン、クレオール、清代

## 一 漢訳聖書研究と満漢資料

ここ数年来、漢訳聖書研究史上において2つの大きな発見があり、官話研究や文体論等の研究に大きな貢献を果たしている。

その一つは、モリソン『新天聖書』の元となった Jean Basset (白日昇, 1662-1707) の「四史攸編」四種、すなわち、大英図書館蔵本、香港大学モリソン文庫蔵本、ローマ・カサナテンセ蔵本・ケンブリッジ大学図書館蔵本(浅文理)の発見であり、もう一つは「幻の聖書」と言われたイエズス会宣教師 Louis de Poirot (賀清泰, 1735-1814) の『古新聖經』各版本(北京官話)の発見である。

特に後者はこれまで例えば、以下のように書目ではその存在は示されてきたが、ずっと未発見のままであったものである。

賀清泰 (Louis de Poirot)

賀清泰神甫虽法兰西人，然为罗兰籍而生长于意大利。1756年在罗马教区入会。学业完毕后，于1769年赴中国。1771年8月15日发誓愿，其为人品性优良，深通汉、满语言。

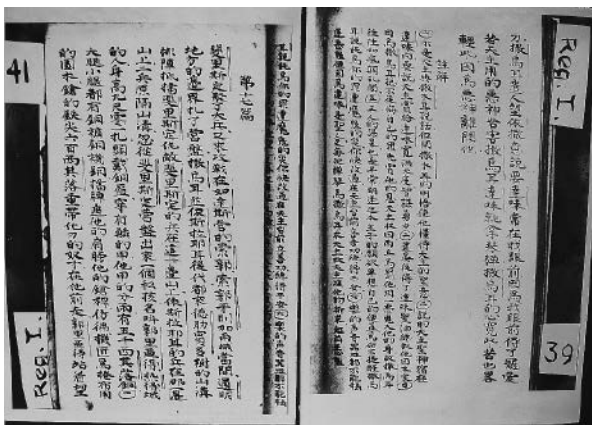
曾将《圣经》大部分译为汉、满文字。

潘廷璋修士1790年一信札，言清泰曾将《圣经》译为满语。附有注释。

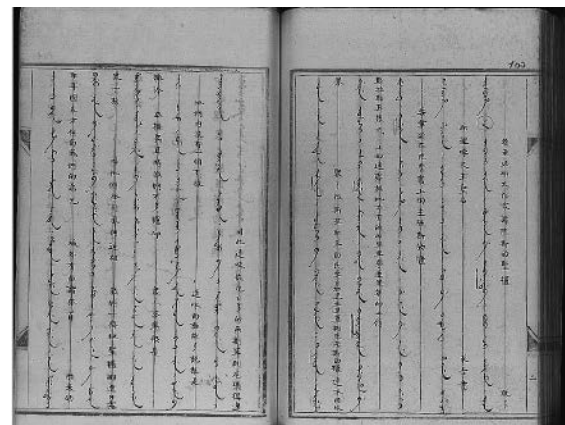
(费赖之 = Louis Pfister 《在华耶稣会士列传及书目》1030-1036p, 1995年中華書局版)

さて、この新しく発見された『古新聖經』の版本は以下の通りである。

- (1) 漢語版……上海徐家匯藏書樓藏
- (2) 漢語版……香港思高《聖經》學會藏雷永明 (Allegra, 1907-1976) 攝北堂稿本殘片
- (3) 滿漢合璧版……聖彼得堡東方文獻研究所藏
- (4) 滿文版……東洋文庫藏

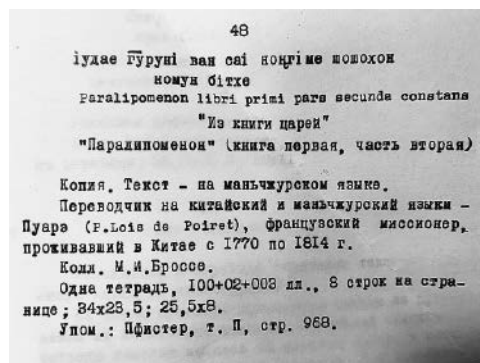


(北堂稿本殘片)



(滿漢合璧版)

(3) の滿漢版については、Volkova: *Opisanie man'chzhurskikh rukopisei Instituta narodov Azii AN SSSR*, 1965に以下のようにその記載がある。なお、本目録には満州語関係の書物が249点 (1988年の増補版では337点) 収められている。



(列王記・歴代志第1巻第2部。中国語、満洲語への翻訳者は北京在住のフランス人宣教師ポアロ。1分冊、100+2+3頁、1頁8行。34x23.5, 25.5x8。Pfister 巻1,968頁に言及あり。)

(4)の満州語版は、東洋文庫所蔵のものであるが、東洋文庫満洲語(蒙古語も含む)資料目録*Catalogue of the Manchu-Mongol section of the Toyo Bunko* / Nicholas Poppe, Leon Hurvitz, Hidehiro Okada. Tokyo & Washington, 1964.には満洲語蒙古語関係資料が525点収められており、また閲覧室備付には請求番号が振られて、書き込み、修正もある。その備付のものによると、本書は以下のように記されている。

510. (100657) : 新舊約聖書, MS, 4 cases, 5fasc.in each. 30X18.5



この他、一枚物手書き資料は、別途館内に簡易目録がある。

また、ポアロのものではないが、満漢合璧(文理版)が学習院大学図書館等に収められている。

なお、ポアロの『古新聖經』の成立順序は以下の通りである。

1. 満文版, 1790, 這個年代估計按照費賴之, 東洋文庫藏?
2. 北堂漢語版, 約1805年完成(1800始譯新經, 未發現)
3. 聖彼得堡滿文版, 1826 (Petr Kamanskii 抄)
4. 徐家匯藏書樓版, 1847年以後抄, (=鐘鳴旦、杜鼎克、王仁芳編的影印版(『徐家匯明清天主教文獻續編』第28冊-第34冊, 台北利氏學社, 2013))
5. 1849年郭實臘在上海擬刊所本之抄本(他1851年去世後, 遂無下文)
6. 香港思高《聖經》學會藏雷永明攝北堂稿本殘片(共308枚; 1925年左右攝)
7. 中國家圖書館藏北堂漢語版: 未發現
8. 聖彼得堡東方文獻研究所藏滿漢合璧版『眾王經新增的尾綱』

ところで、こうした満漢合璧資料は言語接触によって生まれる奇妙な言語、例えば、太田辰夫氏はこれを「漢児言語」と呼び、川澄哲也氏は「擬蒙漢語」と呼ぶが、いわゆる一種のクレオール言語であるが、その研究には極めて重要な資料となる。

ここでは詳しく論じることは避けるが、『古新聖經』の満漢合璧本と漢語本を比較してみると、例えば以下のような違いが見られる。

elemangga žet ba i obededom i boo de benehe.

反 熱得 所 的 阿柏得多莫 的 家 裏 運送

反送到熱得家裡阿柏得多莫（滿漢版，第13章）

反送到熱得的阿栢得多默家裡（漢語版）

daweit fafulame ere jergi üren be yooni dejibu sehe.

達味 傳軍令 這 些 像 把 全部 燒掉 說

達味全命燒那些像斐里斯定的兵（滿漢版，第14章）

達味命全燒那些像斐里斯定的兵（漢語版）

しかし、いわゆる蒙文直訳体ほどは満洲語の影響を受けておらず、清代の満漢合璧に見られる中国語は「満文直訳体」とまでは言いがたいと筆者は考えている。

## 二 『語言自邇集』と満漢資料

Thomas Francis Wade（威妥瑪，1818-1895）の『語言自邇集』（1867初版）は「北京官話の勝利」（高田時雄1995）とも言うべき、中国語史上で北京官話の位置を確定させたテキストであり、日本における中国語教育においても最初の北京語教科書の底本となったが、この本の成立は満洲語と深い関係がある。



その序には以下のようにある。

and the papers which follow in Part VI, are T'an Lun P'ien, or chapters of chat, for distinction's sake entitled The Hundred Lessons. These last are nearly the whole of the native work compiled some two centuries since to teach the Manchus Chinese, and the Chinese Manchu, a copy of which was brought southward in 1851 by the Abbé Huc. (Preface X-XI)

(PartVIに置かれているのは「談論篇」あるいは「雑談（おしゃべり）」の章であり，他との特徴を

際だたせるために100章と名付けられた。この最後のものは、2世紀にわたって満洲人に中国語を、あるいは中国人に満洲語を教えるために編纂された、ネイティブの手になるもののほとんど全てであり、この本は1851年に Abbe Huc によって南方からもたらされたものである。

Wade は1845年に見習い通訳官 (Student interpreter) となり、1846年に香港最高法院の臨時通訳官として派遣される。その後、1848年に香港総督の George Bonham の私設中国語秘書となり、6年間共にする。1852年に Wade は病気のため一時帰国するが、1853年7月に再び中国に戻り、上海副領事に昇格して香港を離れた。つまり、Wade は1951年に香港滞在中に Huc から満洲語の文献を渡されたのである。この Abbé Huc については、復旦大学の宋桔女史の研究に拠って以下のようなことが分かっている。

HUC, Évariste Régis, Abbé (1813-1860)

The French Vincentian missionary father Évariste Régis Huc (埃瓦里斯特·雷吉斯·于克, 古伯察) (1813-1860), often referred to simply as Abbé Huc.

1841年古伯察来到今内蒙古赤峰附近的西湾子法国传教区。在西湾子, 古伯察先生呆了近两年的时间, 主要是为了适应环境和学习汉语, 古伯察这个汉语的名字也是在这个时候、这个地方起的。

1843年5月, 古伯察先生离开了西湾子, 一直奔东北方向而去, 在内蒙古翁牛特旗黑水河畔的传教区去传教, 期间还学习了蒙古语、满语。

1844至1846年, 古伯察和秦噶啤 (Joseph Gabet, 1808-1853) 在中国进行了一次长途旅行。他们先在蒙藏地区游历、传教18个月, 又在拉萨逗留两个月, 经驻藏大臣琦善查获并上奏清廷, 被遣送出藏。根据这样的旅行, 他写过《Travels in Tartary, Thibet, and China - During the years 1844-5-6. (鞑靼西藏旅行记)》(1850)、《Christianity In China, Tartary And Thibet (中国、鞑靼与西藏的基督宗教)》等。

また、『語言自邇集』の「談論編」や「問答」には以下のような記述が見られる。

現在念的都是甚麼書。沒有新樣兒的書, 都是眼面前兒的零碎話和清話指要, 這兩樣兒。(「談論篇」五)

那清文指要, 先生看見過沒有。彷彿是看見過, 那是清漢合璧的幾卷話條子那部書, 是不是。是那部書。那部書都老些兒, 漢文裡有好些個不順當的。先生說得是。因為這個, 我早已請過先生, 從新刪改了, 斟酌了不止一次, 都按著現時的說法兒改好的, 改名叫談論篇。(「問答」十)

つまり、『語言自邇集』の特に「談論編」は「清文指要」系統の本を底本にしたことは明らかなのである。実は、「談論編」の前にはその試行本とも言うべき、Wade とその助手である「應龍田」の手になる『問答篇』(1860) が存在する。「談論編」は100章からなるが、『問答篇』は103章である。





では、彼らが使った満漢合璧本は一体何なのかであるが、これには以下の3種の可能性がある。

『清文指要』(1789, 1809, 1818) = 100章 < 『清話(一)百條』

『初學指南』二卷 清闕名撰 乾隆五九(1794)年 紹衣堂刊本 蒙漢合璧, 富俊編, 按此書係為學蒙古語之用, 書中之蒙文, 皆以滿文字母拼寫其音。(聯) = 102章

『三合語錄』六卷 闕名撰 道光二六(1845)年 藏琉璃廠炳蔚堂板重刊本 富俊編 = 102章

これについては筆者は以前にもすでに述べてあるが、結論から言えば以下の通りである。

「談論篇」100章 < 『問答篇』(1860) = 103章 < 『三合語錄』 = 102章

ところで、Wadeの蔵書の多くはケンブリッジ大学のWade collectionに収められているが、そのカタログの*A catalogue of the Wade collection of Chinese and Manchu books in the library of the University of Cambridge*, by Herbert A. Giles. (1898)には、Manchu and Mongolの項に85点が収められている。ただ、『清文指要』はあるが、他の『三合語録』『初學指南』は収められていない。

### 三 代表的滿洲語關係所蔵目録及び機關——石濱文庫を中心に

滿洲語關係の目録としてはすでに古くなってはいるが『國立北平圖書館故宮博物院圖書館 滿文書籍聯合目録』(1933) はやはり最初に目を通しておくべき目録である。その他、先に触れた Wade collection (Cambridge, Giles)、東洋文庫、天理大学附属図書館、サンクトペテルブルグ東方文献研究所なども当然視野に入れておかねばならないし、ドイツのベルリンやミュンヘン、フランスのBNや大英図書館も見逃せない。しかし、我が国にはもう一つ重要な所蔵機関がある。それは大阪大学の石濱文庫である。

石濱文庫には『大阪外国語大学所蔵 石濱文庫目録』(大阪外国語大学附属図書館、1977) があり、伊地智善繼(当時学長)、芝池靖夫(当時図書館長)の序文、及び外山軍治(名誉教授、元図書館長の肩書き)による「石濱文庫について」という解題が付されている。それによれば、所蔵されているのは、漢籍 20262冊、和書9021冊、洋書3269冊、雑誌9743冊、総計42295冊である。

この中に以下のように、滿洲語(蒙古語も含む) 関連資料も多く含まれている。

[漢籍の部] (「W」は Wade collection にも所蔵するもの、「聯」は『國立北平圖書館故宮博物院圖書館 滿文書籍聯合目録』に所蔵するものを表す——筆者)

經部 第十 小學類 三 各體字書之屬

『滿漢字清文啟蒙』四卷 清舞格撰 雍正八(1730)年 三槐堂刊本(W1729)(聯)

『初學指南』二卷 清闕名撰 乾隆五九(1794)年 紹衣堂刊本 蒙漢合璧, 富俊編, 按此書係為學蒙古語之用, 書中之蒙文, 皆以滿文字母拼寫其音。(聯)

『清文補彙』八卷 清宜興撰 嘉慶七(1802)年刊本(W1786)(聯)

『滿蒙合璧三字經註解』二卷 清富俊撰 道光一二(1832)年 京都三槐堂書坊刊本(W1795) 陶格 tooge 譯, 京都三槐堂刻本(聯)

『三合語錄』六卷 闕名撰 道光二六(1845)年 藏琉璃廠炳蔚堂板重刊本 富俊編, (智信)

『清文接字』一卷 清崇樸山撰 同治五(1866)年 京都聚珍堂刊本 光緒十四(1888)(聯)

『清文典』要四卷 清秋芳堂主人撰 光緒四(1878)年刊本(文淵堂藏版)

『清語摘抄』四種 清闕名撰 光緒一五(1889)年 京都聚珍堂刊本(聯)

『欽定清漢對音字式』不分卷 附敬避字樣一卷 清乾隆三七(1772)年敕撰 光緒一六年 京都聚珍堂刊本

『初學必讀』六卷 清闕名撰 光緒一六(1890)年 北京聚珍堂刊本(聯)

『清語輯要』二卷 清闕名撰 光緒一七(1891)年 荊州駐防繙譯總學刊本(聯)

『清文虛字指南編』二卷 清萬福撰 清鳳山訂 光緒二〇(1894)年 京都聚珍堂刊本 光緒十一年1885 刻本(聯)

『御製增訂清文鑑』三二卷補編四卷 清乾隆三六(1771)年 奉敕撰 刊本

『御製五體清文鑑』三二卷補編四卷 一九五七年 北京民族出版社景印本

『清文指要』三卷續編二卷 刊本(W) 嘉慶十四(1809)年大酉堂重刻本, 嘉慶十四年三槐堂刻本(故)

『清語百條』四卷 清闕名撰 刊本

『滿漢字清文啟蒙』一卷 清闕名撰 刊本 (W)

『清文彙書』一二卷 清李廷基撰 刊本. 乾隆十六年 (1751) 京都藜照閣課本 (聯) (W) (聯)

『四體合璧文鑑』二〇卷總綱八卷 清闕名撰 刊本

史部 第八 詔令奏議類

『三合聖諭廣訓』不分卷 闕名撰 同治一三 (1873) 年 重刊本 (W)

史部 第十二 職官類 二 官箴之屬

『三合吏治輯要』不分卷 清通瑞譯又清孟保譯 咸豐七 (1857) 年刊本 (W1844, 1857) (聯)

史部 第十三 政書類 八 交涉之屬

『蒙漢滿文三合』不分卷 清闕名撰 民國二年 北京正蒙印書局石印本

子部 第二 儒家類 二 性理之屬 清

『庸言知旨』二卷 清宜興撰 嘉慶二四 (1819) 年刊本 (聯)

子部 第十一 類書類 二 摘錦之屬

『一舉三貫清文鑑』四卷 清屯圖撰 乾隆一一 (1746) 年序刊本 (W=1746) (聯)

子部 第十二 小說家類 二 異聞之屬

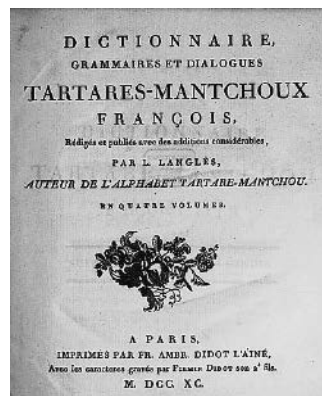
『擇繡聊齋誌異』二三卷 清蒲松齡撰 穆齋賢譯 道光二八 (1848) 年序刊本 (W). 滿漢合璧 二函, 二十四冊, 二十四卷 (聯)

第十三 釋家類 經

『滿漢合璧地藏菩薩本願經』四卷 清闕名譯 刊本 (聯)

欧文資料 (1912年以前、ロシア語除く) も以下のようなものがある。

Amyot, L. *Dictionnaire tartare-mantchou François, compose d'après un dictionnaire Mantchou-Chinois. Tome 1-3. Rédgé et publié avec des additions et l'alphabet de cette langue, par L. Langlés.* Paris, Fr. Ambr. Didot, 1789.





Harlez, C. de. *Manuel de la langue Mandchoue; grammaire anthologie & lexique*. Paris, Maisonneuve Frères & Ch. Leclerc, 1884.

Hoffmann, Giovanni. *Grammatica Mancese. Pt. I*. Pub. Per Cura. Firenze, Successori de Monnier, 1883.

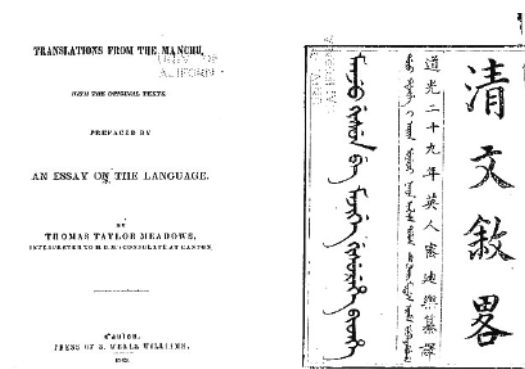
Kaulen, Franciscus. *Linguae Mandshuricae. Institutiones quas conscripsit, indicibus ornavit io*. Ratisbonae, Sumptus Fecit G. Josephus Manz, 1856.

Klaproth, J. *Chrestomathie mandchou, ou recueil de textes mandchou, destine aux personnes qui veulent s'occuper de l'etude de cette langue*. Paris, Autorisation de M gr Grande des Sceaux, Imp., 1828.



Langlés, L. *Alphabet mantchou, rédigé d'après le ayllabaire et le dictionnaire universel de cette langue*. 3e ed. Paris, L'Imprimerie Impériale, 1807.

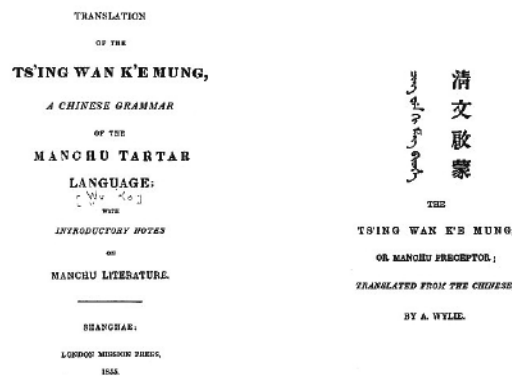
Meadows Thomas Taylor. *An essay on Manchu language; translation from the Manchu, with the original texts*. Canton, Press of S. Wells Williams, 1849. (Desultory notes on the government and people of China, and on the Chinese language, 1847)



Möllendorff, P. G. von. *A Manchu grammar, with analysed texts*. Shanghai, American Presbyterian Mission Pr., 1892.

Rochet, Louis. *Sentences, maxims et proverbes mantchoux et mongols, accompagnés d'une française, des alphabets et d'un vocabulaire de tous les mots contenus dans le texte de ces deux langues*. Paris, Maisonneuve, 1875

*Translation of the Ts'ing Wan K'emung, a Chinese grammar of the Manchu Tatar language; with introd. notes on Manchu literature*. Shanghai, London Mission Pr., 1855 (『清文啓蒙』翻訳)



*Ts'ing Wan K'emung, a Chinese grammar of the Manchu Tatar language* (Wylie, 1855)  
*Linguae Mandshuricae* (1856)

Hare, G. T., ed. *The Hokkien vernacular; English text with English notes and Chinesed version. Part 2*. Kuala Lumpur, Straits Settlements and Selangor Gt. Prins Off., 1904

Ball, J. Dyer. *A English-Cantonese pocket vocabulary, containing common words and phrases*,

*print. Without the Chinese characters, or tonic marks.* 3rd ed., rev. & enlarged. Hongkong, "China Mail" Off., 1906.

Jones, Daniel. *A Cantonese phonetic reader, by D. Jones and Kwing Tong Woo. With an introd.* London, Univ. of London Pr., 1912.

実は、石濱文庫には、こうした満文資料以外にも以下に示したように、官話や方言といった中国語に関する貴重な欧文資料も所蔵されている。

Amundsen Edward. *Short cut to Western Mandarin; first hundred steps (Romanized).* Shanghai, Kelly & Walsh, 1910

Arendt, Carl. *Einführung in die nordchinesische Umgangssprache; praktisches Übungsbuch zunächst als Grundlage für den Unterricht am Seminar. Abt. 1-2.* Stuuart, W. Spemann, 1894.

Arendt, Carl. *Handbuch der nordchinesische Umgangssprache;; mit Einschluss der Anfangsgründe des neuchinesischen Officiellen und Briefstils. Theil 1.* Stuuart. W. Spemann, 1894.

Baller, F.W. *Mandarin primer; prepared for the use of junior members of the China inland mission.* 3rd. ed. Shanghai, China Inland Mission and American Presbyterian Mission Pr.,1894

L.C. Hopkins. *The Guide to Kuan Hua; a translation of the "Kuan Hua Chin Nan".* Shanghai, Kelly & Walsh, 1895

Mateer, C.W. *A course of Mandarin lessons, based on idiom, Rev.ed.* Shanghai, American Presbyterian Mission Press. 1903

Vissière, A *Premières leçons de Chinois; langue mandarine de Pékin. 2e. ed.* Leide, E.J.Brill. 1914

Zottoli, P. Angelo, S.J. *Cursus litteraturae sinicae, vol.1-5,* Chang-Hai, Missionis Catholicae, 1879-82

Zottoli, P. Angelo, S.J. *Cursus litteraturae sinicae, Tr. Française du premier vol. par Le P. C. de Bussy, S. J. Zi-Ka-Wei,* Impr. de la Mission Catholique, 1891

Lacouperie, Terrien de. *The languages of China before the Chinese; research on the language spoken by the pre-Chinese reaches of China proper previously to the Chinese occupation.* London, David Nutt, 1887

Gabelentz, George von der. *Anfangsgründe der chineischen Grammatik.* Leipzig, T. O. Weigel, 1883

Seidel, A. *Chinesische Konversations-Grammatik im Dialekt der nord-chinesischen Umgangssprache.* Heidelberg, Julius Groos, 1901.

Schlegel, Gustave. *La Loi du Parallélisme en style Chinois, Démontrée par la preface du Si-Yu ki. (西域記) Tr. De cette preface par feu Stanislas Julien. Conte la nouvelle tr. Du Père A.*

*Gueluy*. Leide, E. J/Brill, 1896.

Pott, F. L, Hawks. *Lessons in the Shanghai dialect*. Shanghai, American Presbyterian Mission Pr., 1907

Hare, G. T., ed. *The Hokkien vernacular; English text with English notes and Chinesed version. Part 2*. Kuala Lumpur, Straits Settlements and Selangor Gt. Prins Off., 1904

Ball, J. Dyer. *A English-Cantonese pocket vocabulary, containing common words and phrases, print. Without the Chinese characters, or tonic marks. 3rd ed., rev. & enlarged*. Hongkong, "China Mail" Off., 1906.

Jones, Daniel. *A Cantonese phonetic reader, by D. Jones and Kwing Tong Woo. With an introd.* London, Univ. of London Pr., 1912.

こうして見てくると、この石濱文庫がこれまで一部の人にしか注目されてこなかったのが不思議である。現在、関西大学のアジア・オープン・リサーチセンター（KU-ORCAS）では関西大学所蔵のものは言うまでもなく、他の機関の東アジア文献のデジタルアーカイブを推し進めて、世界中の東アジア研究者の便宜に供したいと考えているが、この石濱文庫もまさにその対象となるべき貴重な資料群である。

KU-ORCASの研究ユニットとその主な内容は次の通りであるが、このユニット1のプロジェクトの一つとして石濱文庫デジタル化を是非関係諸氏に呼びかけたいと考えている。

[付記]

本論は2018年10月26日－27日に関西大学東西学術研究所主催の石濱純太郎没後50周年記念国際シンポジウム「東西学術研究と文化交渉」、及び2019年5月25日に開催された満族史第34回研究会で口頭発表したものを加筆整理したものである。